

2-2 [タイトル]わが国のインターネット 上における癌補完代替医療情報の現 状分析と課題の再検討

○中村 直行（東京大学大学院 学際情報学府）

[目的]補完代替療法と呼称される領域において、インターネット上でいかなる情報が発信されているのか、癌治療情報を対象として現状を把握し問題点を明確にすると共に問題点を解消していくことを目的として、昨年の研究を継続した。

[方法]1. 検索エンジンで「癌の代替療法」を検索。今回も昨年同様インターネット検索エンジンにより「癌の代替療法」として実際に発信されている情報を、信頼できるかどうかという根拠を確定させるためにはどのようなデータを集積したらよいかという視点で、n数を昨年の7件から49件へと事例を増やし分析した。2. 曖昧情報の追跡調査。事例分析の結果、上記の一定基準に満たないものをさらに追跡調査した。

[結果]安全性、有効性、整合性、経済性、流通性の視点から検索エンジンによりアクセスした情報を評価すると、対象事例49件のうち18件について事実の検証はできなかった。

[考察]非医療従事者が他の治療法を求める際、深層心理に適合する情報を優先させてしまうというケースがないとはいえない。わが国の補完代替療法やその情報における問題の本質は、医療従事者側、患者側、業者側そして国側とそれぞれに存在する。例えば、米国では国立補完代替医療センターが設置され専門的な研究が行なわれているが、わが国の同領域の研究基盤は脆弱である。また、恰も事実であるかのように表現しながら実際はその事実を立証できない情報も依然として複数実在する。したがって、インターネット上に代替療法として記載されているものに正しくないものがあるとすれば、新たな法規制や膨大な情報量を常時精査できる体制を構築することも有意ではあるが限界があるかもしれない。そこで、このような背景に応じて昨年提示した改善案を一部修正補足して再提示した。